

指導講評

審査委員 栃木県立鹿沼南高等学校長 羽山 潔

小・中学生の作品は、生活の中で緑や森林について見聞したり、学校での学習で体験したりしたことにもとづく身についた意見がほとんどでした。いずれも緑や森林の大切さについてよく理解し、自分のできることから前向きに取り組んでいこうとする意欲を強く感じる作品でした。

高校生の作品は、日本や世界に目を向けたものが多く、高校生になって学びの範囲が広がっていることに頼もしさを感じます。ただし、意見が独創性に富み説得力あるものとなるには、収集した事実や意見を適切に吟味し、あと一步、洞察を深めることが求められます。

緑や森林の保続を考えるときに、「自然のためには人手が入らない方がいい。」と考えやすいのですが、今年度の作品には、「植林や間伐など、人間が積極的に関わることで維持される。」という意見が多く、応募者の学びの確かさを感じました。

今後も児童生徒の皆さんは、緑化推進や森林愛護を課題として作文を書いてください。作文にまとめることで、日頃の学びや体験、漠然とした自分の思いを整理し、意見を導き出し、これからすべきことを見いだしていくことができます。

来年度はさらに多くの作文が出展されることを期待しています。